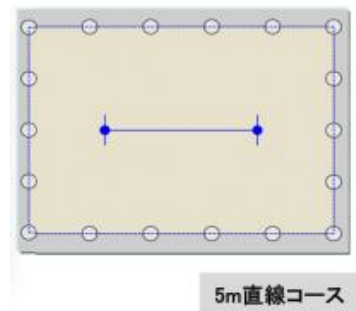


【初級】持参犬でのオビディエンス

《課目》

- ①オスワリ：スタート時点でヒールポジションにつけ、「スワレ」の状態アイコンタクト5秒間
- ②フセ：スタート時点でヒールポジションにつけ、「フセ」の状態アイコンタクト5秒間
- ③オスワリ マテ：「スワレ」の状態から「マテ」を指示し、リード1本分離れ、アイコンタクト5秒間の後、ヒールポジションへ戻る
- ④フセ マテ：「スワレ」の状態から「フセ」・「マテ」を指示し、リード1本分離れ、アイコンタクト5秒間の後、ヒールポジションへ戻る
- ⑤オイデ：「スワレ」の状態から「マテ」を指示し、リード1本分離れてから、自分のタイミングで犬を呼び、対面停座させた後、ヒールポジションにつける
- ⑥脚側歩行 往復：「アトへ」の声とともに歩き出し、コースを往復



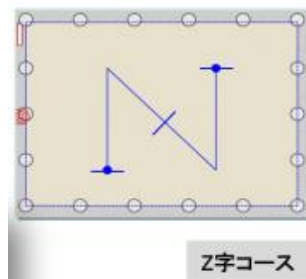
【中級】持参犬でのオビディエンス / 【上級】指定犬でのオビディエンス

内容は【初級】と変わらないが、コースがZ字になっている。行進しながらそれぞれの課目をZ字中央部で行う為難易度が高い。さらにアイコンタクトの規定秒数は10秒に増える。

上級の指定犬は、競技会当日に指定された犬の競技となる。

《課目》

- ①オスワリ
- ②フセ
- ③オスワリ マテ
- ④フセ マテ
- ⑤オイデ
- ⑥脚側歩行 片道

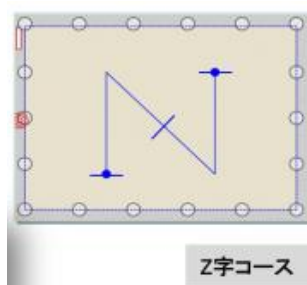


【上級】持参犬でのオビディエンス / 【教師】持参犬でのオビディエンス

上級は持参犬と指定犬の 2 パターンを実施、持参犬ではオフリード・各課目中はモチベーター無しで行う。上級・教師クラスでは、行進中の停座や遠隔での指示など、課目の難易度が上がり、脚側歩行も速歩と呼ばれるスピード感のある速さになっている。

《課目》

- ①オスワリ マテ
- ②タテ マテ
- ③オイデ
- ④常歩行進中のオスワリ
- ⑤常歩行進中のフセ
- ⑥遠隔課目（選択）のオイデ
- ⑦脚側歩行（速歩）片道



【上級】持参犬でのアジリティ / 【教師】持参犬でのアジリティ

上級はハードルなどのジャンプ障害を中心としたコースとなっており、教師はドッグウォークやシーソーなどのコンタクト障害が加わる。競技タイムだけでなく、確実各々障害をクリアすることがポイントとなる。



【教師】検疫探知

- ①配列 7 個×3 列（計 21 個）
- ②検知回数 3 回
- ③1 回の検知に含まれるターゲットの数 0～3 個
- ④1 列あたりの探知回数は 2 回まで
- ⑤犬がターゲットを探知したと判断した場合は挙手により通知
- ⑥100 点満点からの減点法（80 点以上の場合を合格とする）
 - ノンターゲットに対する反応・・・－3 点
 - ターゲットを発見できなかった場合・・・－11 点
 - ※ハンドラーが挙手したときのみを採点対象とする
- ⑦実地評価の各項目のスコアが全て 3 以上であること



注意事項

- (1) 使用する道具（オモチャ、オヤツ）等は各自で用意し、競技中の貸し借りは禁止。
- (2) 出陳犬が競技中に排泄した場合は、指導者が責任を持って処理すること。
- (3) 出陳犬がシーズン中の場合は、受付時に必ず申告する事。シーズン犬は競技順序を各リングの最後尾に繰り下げる。
- (4) 競技順が来たにも関わらず、3分経過してもリングに来なかった場合は棄権したものとみなす。